

Regional Disparity of Reperfusion Therapy for Acute Ischemic Stroke in Japan: A Retrospective Analysis of Nationwide Claims Data from 2010 to 2015

前田, 恵

<https://hdl.handle.net/2324/4784470>

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : (c) 2021 The Authors. Published on behalf of the American Heart Association, Inc., by Wiley. This is an open access article under the terms of the Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs License.

氏名： 前田 恵

論文名： Regional Disparity of Reperfusion Therapy for Acute Ischemic Stroke in Japan: A Retrospective Analysis of Nationwide Claims Data from 2010 to 2015

(日本における急性期脳梗塞に対する再灌流療法の地域格差：2010年から2015年までの日本全国のレセプトデータを用いた後ろ向き観察研究)

区分： 甲

論文内容の要旨

目的：本研究は、日本における急性期脳梗塞患者に対する遺伝子組換え組織プラスミノゲンアクチベーター静注療法 (rt-PA静注) および経皮的脳血栓回収療法 (EVT) を用いた再灌流療法の実施状況と治療実施後30日院内死亡における地域格差および格差に関連する地域要因を明らかにすることを目的とした。

方法：レセプト情報・特定健診等情報データベース (National Database : NDB) を使用して、2010年4月から2016年3月までの間に日本全国で再灌流療法を受けた急性期脳梗塞患者69,948人 (平均年齢±標準偏差、74.9±12.0歳、女性41.4%) を抽出し調査した。47都道府県別に年齢・性で標準化した再灌流療法実施数/10万人および治療後30日院内死亡の標準化死亡比を算出し、ジニ係数を用いて地域格差を評価した。また、地域要因と再灌流療法実施数との関連を、固定効果回帰モデルを用いて評価した。

結果：研究対象期間におけるジニ係数の推移をみると、rt-PA静注単独療法とrt-PA静注および/またはEVTの実施数については、研究期間を通じて都道府県間で低い不均等 (0.11~0.15) であった。EVTについては、2010年には都道府県間で極端な不均等 (0.49) が見られたものの、2015年には中程度の不均等 (0.25) となっていた。地域要因については、脳卒中センター数や血管内治療専門医の密度、治療実施医療機関に対する集中度は、再灌流療法実施数と正の関連がみられたが、地方在住者の割合や救急車搬送遅延率は、再灌流療法実施数と負の関連が見られた。EVT後の30日死亡については、2010年には都道府県間で極端な不均等 (0.86) がみられたものの、2015年には中程度の不均等 (0.29) となっていた。rt-PA静注単独療法とrt-PA静注および/またはEVT後の30日死亡は、いずれも都道府県間で中程度の不均等 (0.17~0.23) であった。

結論：既存のデータベースを詳細に検討することで、日本における急性期脳梗塞に対する再灌流療法の地域格差とそれに関連する地域要因が明らかになった。